

「羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針（案）」についての意見募集結果

○ 意見提出者数 市民 4人

○ 意見項目数 28件

意見番号	項目番号	ご意見の内容 (概要)	該当する ページ	該当箇所	意見に対する 羽生市の考え方	対応について
1	1	基本方針（案）の一部変更は、意見収集→再検討→変更案の決定に至る経緯を考えると、良いことである。 昨年の説明会のときに、案の決定過程が明確に説明されていればよかった。		計画全般	保護者や地域住民の皆様の御意見をいただき、基本方針（案）を一部変更しました。再編成の検討の過程は、随時情報提供してまいります。	計画（案）のとおりとします。
	2	義務教育学校は早めに設置したほうが良い。新郷第一小学校は自転車通学の距離と安全性を考えると西部地区義務教育学校に通うのが良い。 西・南中学校区は、義務教育学校設置までの間は現在の小学校を残す。小学校の名称変更と通学区域を一部見直す	8、9 12	3 適正規模・適正配置の基本的な考え方（2）義務教育学校の設置 6 具体的な適正規模・適正配置の計画	義務教育学校の設置にあたっては、児童生徒の学習環境や学校の運営環境を考慮すると、9年間同じ校舎で学ぶ施設一体型が望ましいと考えています。小学校の再編成時には、まずは施設分離型の小中一貫校とし、小中一貫教育のノウハウを蓄積したうえで、将来的に義務教育学校を設置します。設置時期は、児童生徒数の推移や施設の状況などにより、現時点で明確な時期を示すことは難しいと考	計画（案）のとおりとします。

		<p>ことで小学校は1学年1クラス10人から30人程度を維持できる。児童にとって1学年複数クラスでなくてもデメリットは少ない。</p> <p>義務教育学校の設置は2040年から2045年とする。</p> <p>義務教育学校設立までの間は2030年頃を目途に現在の小学校の名称と通学区域、中学校区の境界の見直しを行う。一例として</p> <p>羽生北小学校→羽生西第一小学校 川俣小学校→羽生西第二小学校 新郷第一小学校→羽生西第三小学校 岩瀬小学校→羽生南第一小学校</p> <p>とする。</p> <p>通学区見直しの例として、羽生西第三小の近くに住んでいる川俣地区と岩瀬地区の児童は</p>			<p>えています。</p> <p>西・南中学校区の小学校の再編成については、当初の案をいったん白紙に戻して再検討し、令和6年度末を目途に基本方針を示せるようにします。いただいた御意見は、今後の再検討の参考とさせていただきます。</p>	
--	--	---	--	--	---	--

	<p>羽生西第三小に通学する。ただし地区住民やP T Aの理解が必須である。羽生西第一小、第二小、第三小の児童は西中に通学する。羽生南第一小の児童は南中に通学する。</p> <p>現在でも児童生徒第一と考え、新郷地区と岩瀬地区は西中学校と南中学校に分かれている。同じ小学校の卒業生は同じ中学校に通うことが基本であるので、岩瀬小の児童が卒業後西中と南中に分かれている状況を見直す必要がある。</p>				
3	<p>基本方針決定までには、地区やP T A等との話し合いとともに他の自治体の先行事例の研究が必須である。</p> <p>最も重要なことは児童生徒が元気に育っていくことである。在学中に多くの生徒が次の進</p>		計画全般	<p>再編成を検討するにあたっては、他の自治体の事例を参考にしながら、保護者や地域住民と十分に協議・調整を行ってまいります。</p> <p>子どもたちが自ら夢や希望を持ち、生きる力を育むことができる環境づくりを目指し、学校の再編成を進めてまいります。</p>	計画（案）のとおりとします。

		路を自ら考え、行動できるような学びの場を作っていくことが大人の責任である。				
2	4	再編成は時期尚早であり、白紙撤回を要求する。	1 2	6 具体的な適正規模・適正配置の計画	<p>学校の再編成の目的は、羽生市の将来の子どもたちにとって、よりよい教育環境を整えるということです。</p> <p>東中学校区は児童数の減少が顕著であり、既に複式学級となっている学年もあります。義務教育の目的の一つは「個人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと」です。そのためには、切磋琢磨が必要です。自立的に生きる基礎を培うためには、子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、話し合い、友だちの考えと折り合いをつけ、合意形成を図るということを学び、経験する必要があります。そのためには、ある程度の人数が必要になってきます。ある程度の人数で、この学習過程を積み重ねることで、自立的に生きる基礎を培うことにつながります。</p> <p>したがって、速やかに再編成を行う必要があると考えていま</p>	計画（案）のとおりとします。

					す。	
5	自分たちの住む地域を大切にするという思いが薄れてしまう恐れがあり、アイデンティティの喪失につながる。		計画全般		地域の歴史や文化についての学習は、再編成後も引き続き実施し、子どもたちの郷土愛を育ててまいります。	計画（案）のとおりとします。
6	災害時に避難するところがなくなる恐れがある。		計画全般		再編成により閉校となっても、当面の間は避難所として残りますが、将来の避難所の計画については、羽生市地域防災計画の中で検討してまいります。	計画（案）のとおりとします。
7	過疎が一段と進み、空き家が増え、火災の発生や治安が悪化する可能性がある。		計画全般		いただいた御意見は今後のまちづくりの参考とさせていただきます。	計画（案）のとおりとします。
8	人口減少により農業が衰退し水田が荒れる可能性が高い。水田が失われることで治水効果が低下し、洪水のリスクが増える。		計画全般		いただいた御意見は今後のまちづくりの参考とさせていただきます。	計画（案）のとおりとします。
9	数十年前から市街化調整区域であり、人口が減少することは必然である。人口減少を食い止められなかったのは行政の責任である。		計画全般		いただいた御意見は今後のまちづくりの参考とさせていただきます。	計画（案）のとおりとします。
10	過疎地域の結婚率の		計画全般		いただいた御意見は今後のまち	計画（案）のとおり

		低下や少子化のスピードを遅らせる対策があると思う。若い世代に戻ってきてもらえるように市として何ができるか、市全体で考えないといけない。			づくりの参考とさせていただきます。	りとします。
1 1		ふるさと納税で過疎化を防いでいる自治体もある。今以上にふるさと納税を活用していただきたい。		計画全般	いただいた御意見は今後のまちづくりの参考とさせていただきます。	計画（案）のとおりとします。
1 2		農業をしたいという都市部の若い世代の移住を進めていかなければならない。		計画全般	いただいた御意見は今後のまちづくりの参考とさせていただきます。	計画（案）のとおりとします。
1 3		過疎地域の偏在が問題である。過疎の偏在を解消する努力をしてから学校の統合を検討していただきたい。		計画全般	いただいた御意見は今後のまちづくりの参考とさせていただきます。	計画（案）のとおりとします。
1 4		三田ヶ谷小学校をなくすことは、三田ヶ谷というコミュニティを消滅することと同意義である。		計画全般	地域の活性化対策やまちづくりについては、地域とともに市全体で取り組んでまいります。再編成後の学校が、通いたくなる魅力的な学校となるよう努めます。	計画（案）のとおりとします。
1 5		子どもたちのフレイル予防として、学校まで		計画全般	再編成後は、通学距離が遠距離となる地域にはスクールバスを導	計画（案）のとおりとします。

		の歩行は足腰を鍛えることになり転びにくい体を形成する役割がある。			入しますが、子どもたちの体力の低下を防ぐため、学校での体力づくり活動の充実に取り組んでまいります。	
16		過疎地域の人口減少についての市と地域の働きかけを見ながら数十年単位での再編成でも遅くはないのではありませんか。		計画全般	<p>学校の再編成の目的は、羽生市の将来の子どもたちにとって、よりよい教育環境を整えるということです。</p> <p>東中学校区は児童数の減少が顕著であり、既に複式学級となっている学年もあります。義務教育の目的の一つは「個人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと」です。そのためには、切磋琢磨が必要です。自立的に生きる基礎を培うためには、子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、話し合い、友だちの考えと折り合いをつけ、合意形成を図るということを学び、経験する必要があります。そのためには、ある程度の人数が必要になってきます。ある程度の人数で、この学習過程を積み重ねることで、自立的に生きる基礎を培うことにつながります。</p> <p>したがって、速やかに再編成を行う必要があると考えていま</p>	計画（案）のとおりとします。

					す。	
3	1 7	三田ヶ谷小学校の再編成について再検討していただきたい。	1 2	6 具体的な適正規模・適正配置の計画	<p>学校の再編成の目的は、羽生市の将来の子どもたちにとって、よりよい教育環境を整えるということです。</p> <p>東中学校区は児童数の減少が顕著であり、既に複式学級となっている学年もあります。義務教育の目的の一つは「個人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと」です。そのためには、切磋琢磨が必要です。自立的に生きる基礎を培うためには、子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、話し合い、友だちの考えと折り合いをつけ、合意形成を図るということを学び、経験する必要があります。そのためには、ある程度の人数が必要になってきます。ある程度の人数で、この学習過程を積み重ねることで、自立的に生きる基礎を培うことにつながります。</p> <p>したがいまして、速やかに再編成を行う必要があると考えています。</p>	計画（案）のとおりとします。
	1 8	井泉小学校に移ってからも、ムジナモや水	1 1	4 適正規模・適正配置を進めるにあたっての留意	<p>これまで各学校が取り組んできた活動や行事を新しい教育課程に</p>	計画（案）のとおりとします。

		塚、田舎教師等の地域学習は続けていただきたい。		点	組み込み、継続していくよう努めます。	
	19	三田ヶ谷小学校が廃校となれば、過疎が加速する。再編成を進めるのであれば、今より強力な過疎化対策との両輪で進めることが必須である。		計画全般	地域の活性化対策やまちづくりについては、地域とともに市全体で取り組んでまいります。再編成後の学校が、通いたくなる魅力的な学校となるよう努めます。	計画（案）のとおりとします。
4	20	再編成について、子どもたちの意見を聴いてほしい。地域住民を置き去りにせず、十分に議論を尽くす必要がある。		計画全般	再編成を検討するにあたっては、保護者や地域住民と十分に協議・調整を行ってまいります。基本方針が決定した後、新しい学校づくりの準備をする中で、子どもたちにも丁寧に伝えてまいります。	計画（案）のとおりとします。
	21	小中一貫校の案には賛成であり、中学校の先生が小学校の教科も担当するような教科担任制を実現してほしい。そのためには施設一体型が必要で、再編成のタイミングで校舎や学校を新設してもいいのではないか。	8、9	3 適正規模・適正配置の基本的な考え方（2）義務教育学校の設置	教科担任制については、国の動向も踏まえ、対応してまいります。 義務教育学校の設置にあたっては、児童生徒の学習環境や学校の運営環境を考慮すると、9年間同じ校舎で学ぶ施設一体型が望ましいと考えています。小学校の再編成時には、校舎・学校の新設は困難ですので、まずは既存の校舎を使用する施設分離型の小中一貫校とし、小中一貫教育のノウハウを	計画（案）のとおりとします。

					蓄積したうえで、将来的に義務教育学校を設置します。設置時期は、児童生徒数の推移や施設の状況などにより、現時点で明確な時期を示すことは難しいと考えています。	
2 2	市の空き家バンクを活用し、転入者の経済的負担を軽減する政策により若者世代の転入を促し労働者人口を増やす。		計画全般		いただいた御意見は今後のまちづくりの参考とさせていただきます。	計画（案）のとおりとします。
2 3	市街化調整区域を見直し、小学校や公民館から一定の距離以内に戸建て住宅の建築を可能にする。		計画全般		いただいた御意見は今後のまちづくりの参考とさせていただきます。	計画（案）のとおりとします。
2 4	学区制を見直し小規模特認校として他地域からの転入も認める。		計画全般		<p>学校の再編成の目的は、羽生市の将来の子どもたちにとって、よりよい教育環境を整えるということです。</p> <p>東中学校区は児童数の減少が顕著であり、既に複式学級となっている学年もあります。義務教育の目的の一つは「個人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと」です。そのためには、切磋琢磨が必要です。自</p>	計画（案）のとおりとします。

					<p>立的に生きる基礎を培うためには、子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、話し合い、友だちの考えと折り合いをつけ、合意形成を図るということを学び、経験する必要があります。そのためには、ある程度の人数が必要になってきます。ある程度の人数で、この学習過程を積み重ねることで、自立的に生きる基礎を培うことにつながります。</p> <p>したがって、速やかに再編成を行う必要があると考えています。</p>	
25	三田ヶ谷小学校をモデルスクールとして非認知能力向上の取組を打ち出せば注目を集められる。		計画全般	<p>学校の再編成の目的は、羽生市の将来の子どもたちにとって、よりよい教育環境を整えるということです。</p> <p>東中学校区は児童数の減少が顕著であり、既に複式学級となっている学年もあります。義務教育の目的の一つは「個人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと」です。そのためには、切磋琢磨が必要です。自立的に生きる基礎を培うためには、子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、話し合い、友だち</p>	計画（案）のとおりとします。	

					<p>の考えと折り合いをつけ、合意形成を図るということを学び、経験する必要があります。そのためには、ある程度の人数が必要になってきます。ある程度の人数で、この学習過程を積み重ねることで、自立的に生きる基礎を培うことにつながります。</p> <p>したがって、速やかに再編成を行う必要があると考えています。</p> <p>非認知能力の向上については、引き続き、羽生市全体の教育で取り組んでまいります。</p>	
26	複式学級はオンライン教育の積極的活用で解決できる可能性がある。		計画全般	<p>複式学級のオンライン教育は課題が多いため、複式学級にならないクラス編成が望ましいと考えております。</p>	計画（案）のとおりとします。	
27	<p>少人数学級は、勉強以外の生活面でも子どもたちの小さな変化に気づきやすいというメリットがあるが、クラスの人数が増えるときめ細かな指導ができなくなる。</p> <p>小規模校は学年を超えた縦のつながりが強</p>		計画全般	<p>学校の再編成の目的は、羽生市の将来の子どもたちにとって、よりよい教育環境を整えるということです。</p> <p>東中学校区は児童数の減少が顕著であり、既に複式学級となっている学年もあります。義務教育の目的の一つは「個人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと」です。そのた</p>	計画（案）のとおりとします。	

		<p>い。自分の学年以外の児童と関わる経験をもつことで、幅広い人間関係の形成が期待できる。</p> <p>少人数教育・小規模校のメリット・デメリットを精査していただきたい。外部から教育の専門家を招き具体的な計画を練っていただきたい。</p>			<p>めには、切磋琢磨が必要です。自立的に生きる基礎を培うためには、子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、話し合い、友だちの考えと折り合いをつけ、合意形成を図るということを学び、経験する必要があります。そのためには、ある程度の人数が必要になってきます。ある程度の人数で、この学習過程を積み重ねることで、自立的に生きる基礎を培うことにつながります。</p> <p>したがって、速やかに再編成を行う必要があると考えています。</p>	
28	<p>子どもの自然な競争意識を芽生えさせるのに大規模な集団は必要ない。人間関係が固定化されることは、子どもたちにとってデメリットだけではない。むしろ安定した継続的な人間関係は子どもたちの成長にとって必要なことである。いじめは人間関係が不安定だからこそ起きる。クラス替えで根本</p>	計画全般	<p>学校の再編成の目的は、羽生市の将来の子どもたちにとって、よりよい教育環境を整えるということです。</p> <p>東中学校区は児童数の減少が顕著であり、既に複式学級となっている学年もあります。義務教育の目的の一つは「個人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと」です。そのためには、切磋琢磨が必要です。自立的に生きる基礎を培うためには、子どもたちが多様な考えに触</p>	<p>計画（案）のとおりとします。</p>		

		<p>的な解決にはならない。 親密な安定した人間関係を築くことができる 小規模な学校ほどいじめは起こりにくく、起きても適切に対応できるものである。</p> <p>小さな学校は授業や学校を自分たちで作る上げる。「アクティブラーニング」の礎となる「自発性・主体性」は小さな学校だからこそ身につくものではないか。</p>			<p>れ、認め合い、話し合い、友だちの考えと折り合いをつけ、合意形成を図るということを学び、経験する必要があります。そのためには、ある程度の人数が必要になってきます。ある程度の人数で、この学習過程を積み重ねることで、自立的に生きる基礎を培うことにつながります。</p> <p>したがって、速やかに再編成を行う必要があると考えています。</p>	
--	--	---	--	--	---	--